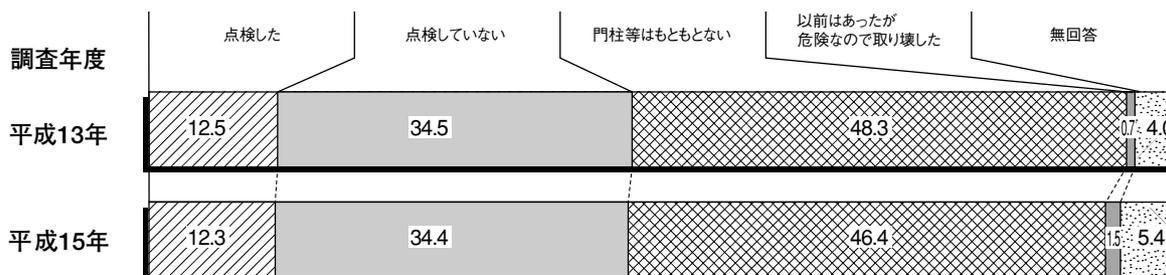


石塀・ブロック塀が倒壊すると 通行人に被害を及ぼす可能性があります。 必ず点検してください。



石塀・ブロック塀はだいじょうぶですか。



点検した家庭はまだ1割程度です。宮城県沖地震（1978年）では、石塀やブロック塀の倒壊により、多数の死傷者が出ました。

ブロック塀から生け垣に取り換えるときに補助金を出す市町村もありますので、各市町村の建築指導担当課へ確認してください。

ブロック塀の3点検

以下の3項目について点検しましょう

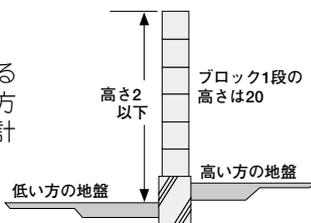
点検結果に1つでも不適合があれば、そのブロック塀は危険性が大きく、改善する必要があります。

点検1 塀は高すぎないか

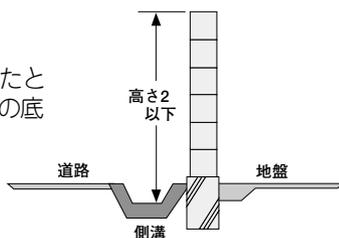
点検結果 適合 不適合

塀の高さは、地盤から2m以下かどうか調べてください。

地盤に差があるところは、低い方の地盤から計る。



側溝に沿ったところは、側溝の底から計る。

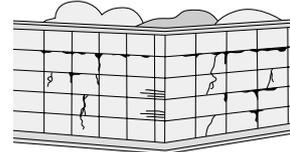


点検2 塀の傾き、ひび割れはないか

点検結果 適合 不適合

塀が傾いたり、ひび割れていないか、また鉄筋が錆びていないか調べてください。

鉄筋の入っているところに沿ってブロックが茶色ににじんでいたり、はじけていたら、中の鉄筋が錆びています。



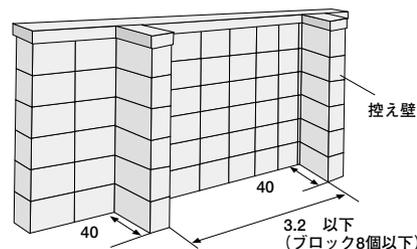
点検3 控え壁はあるか

点検結果 適合 不適合

注) 塀の高さが1.2mを超えるお宅の方のみ点検ください。

次の . . . について調べてください。

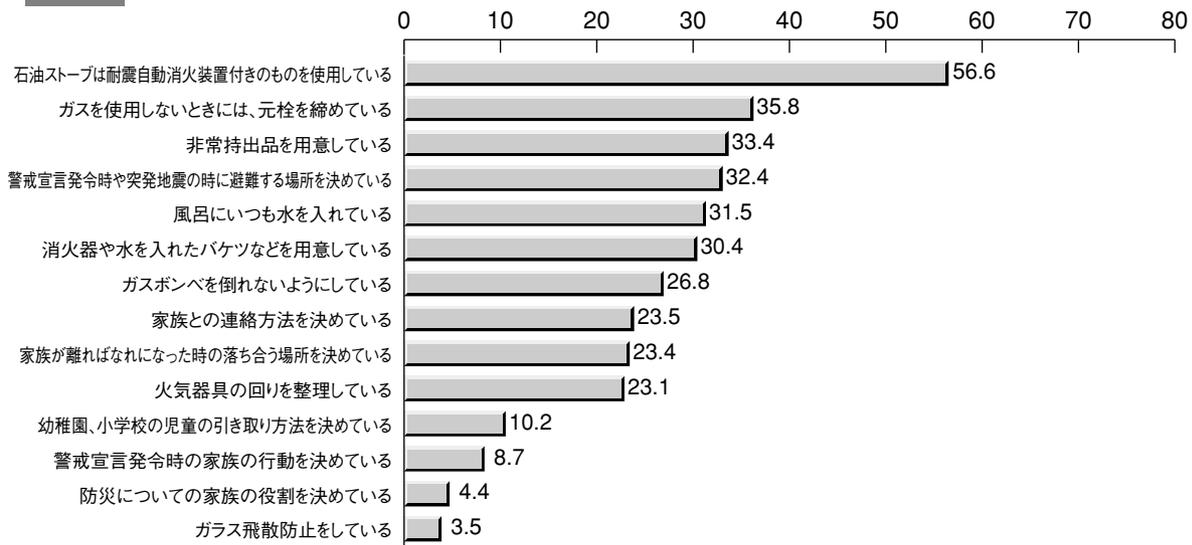
控え壁は塀の長さ3.2mごとにあるか
控え壁の長さは40cm以上あるか



自宅から災害を発生させないために、 また地震発生時にとまどわないように 日ごろから防災対策を実施しておきましょう。



東海地震に備えてお宅で行っているものは何ですか。



発災時には、家族が別々の場所にいたり、社会の状況も混乱することが予想されます。次の表を参考に、ぜひお宅の行動計画を作ってください。

★役割分担行動表

名前	ふだんの日の昼間にいる可能性の高い場所	家族の集合場所	避難所

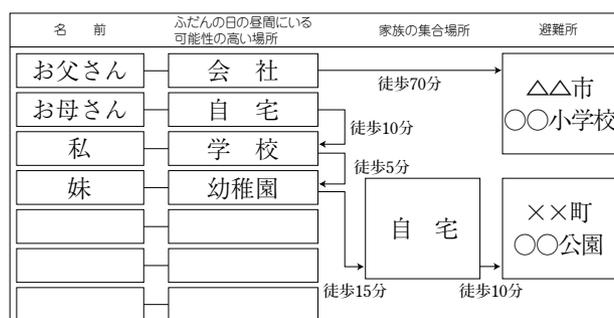
★家族の役割

内容	名前
ラジオ・テレビで情報を確認する	
火を消す	
ガスの元栓、プロパンガスボンベのバルブを締める	
危険物を安全なところに移す	
電気器具のコンセントを抜く	
棚の上から物をおろす	
家具などを倒れないようにする	
窓ガラスなどにガムテープをはる	
出入り口を確保する	
消火器・バケツを用意する	
飲料水を確保する	
非常持出品の確認をする	
すぐに戻ってこれない家族への伝言があれば書いておく	
子供や老人の世話をする	

行動表の使い方(例)

お父さんは会社から△△市〇〇小学校へ避難します。

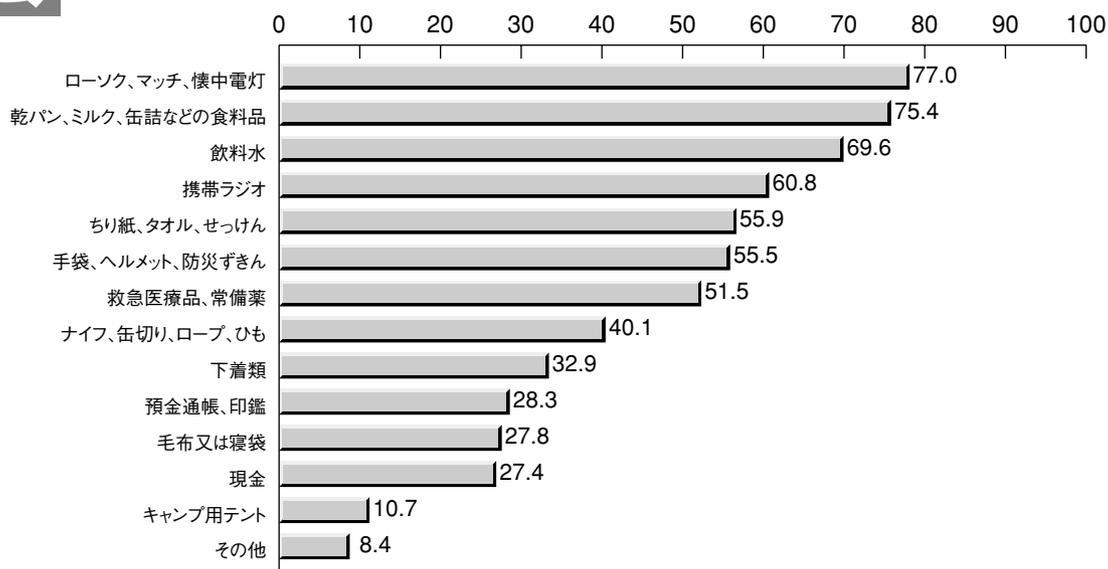
お母さんは自宅から私と妹をむかえに行き、いったん自宅へ戻ってから××町〇〇公園へ避難します。



地震発生後のことを考えて、 当面の生活に必要な物資を 非常持出用として準備してください。



非常持出品として何を用意していますか。



訓練の際には、実際に持ち出して、中身を確認してください。

点検しましょう

非常持出品としては右図のような品を用意します。家族構成などを考えて、最小限必要なものを用意しましょう。また、訓練の際にどのくらいのものを持ち出すことができるか、他に必要なものはないかを確認することも大切です。

赤ちゃんや体の不自由な方のいる家庭では その人に必要な日用品も

赤ちゃんのいる家庭では

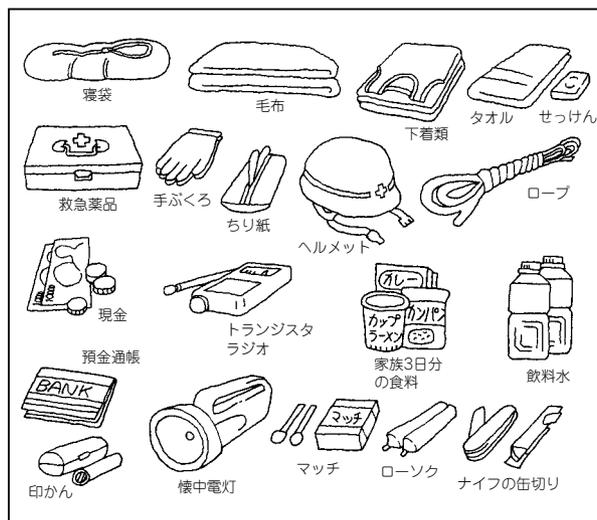
飲料水、ミルク、哺乳びん、離乳食、スプーン、着替え、オムツ、清浄綿、おぶい紐、タオル、バスタオル又はベビー毛布、ガーゼ又はハンカチ、バケツ、ビニール袋、石鹸などを用意しましょう。

妊婦さんのいる家庭では

脱脂綿、ガーゼ、サラン、T字帯、清浄綿及び新生児用品、ちり紙、ビニール風呂敷、ビニール袋、母子手帳、新聞紙、石鹸などを用意しましょう。

要介護者がいる家庭では

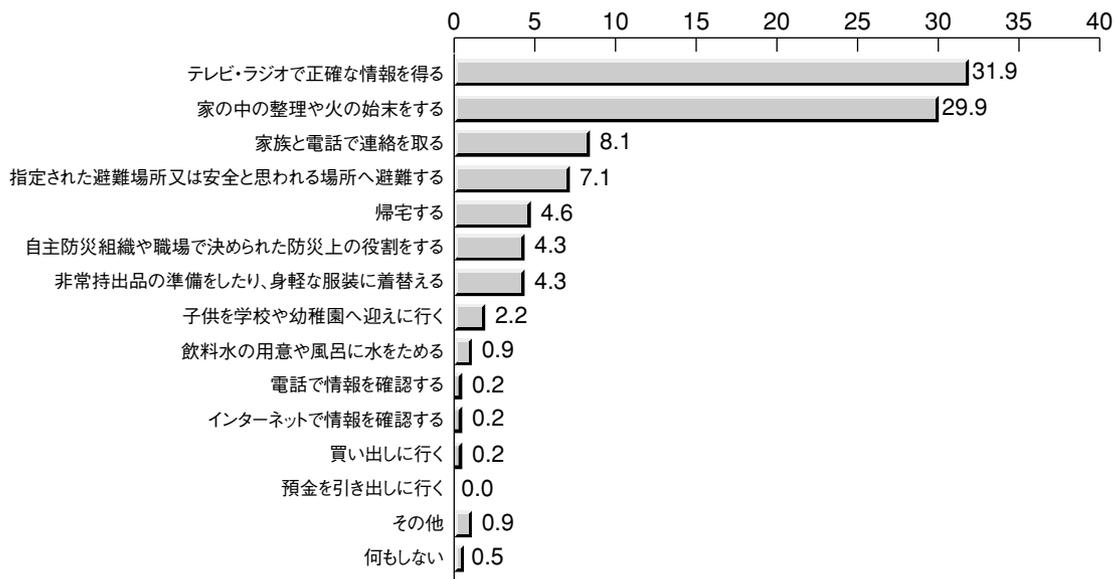
着替え、オムツ、チリ紙、ガーゼ又はハンカチ、障害者手帳、補助具等の予備、薬などを用意しましょう。



突然強い揺れを感じる大地震が発生した場合、
まず最初に身の安全をはかり、
火元を確認してください。

Q

東海地震が突然起こったときあなたは最初に何をしますか。



突然地震が起きたら？

取るべき行動

地震発生！まず落ち着いて身の安全を

◆身を守れ

- ・丈夫な机やテーブルなどの下に身を隠しましょう。
- ・座布団などが身近にあれば、頭部を保護しましょう。

◆とっさの判断

- ・揺れを感じたら、目の前の火を消しましょう。
- ・揺れを感じたら、玄関などの扉を開けて脱出口を確保しましょう。

◆あわてて外へ飛び出さな

- ・激しい揺れは1～2分続きます。あわてて外に飛び出したりせず、落ち着いて行動しましょう。

そのためには

自宅の耐震診断を実施し、必要ならば耐震補強を行きましょう。
家具類の固定やガラスの飛散防止などをしっかりと行いましょう。